キャンパスフレームワークプラン
概　要　版

キャンパスフレームワークプラン 2011 の構成

1　位置づけ等
1）背景
2）目的
3）位置づけ
4）内容

2　前提条件
1）上位計画
2）自然・立地・歴史環境
3）都市計画等
4）現況課題
5）利用者アンケート
＊概要版では 3)都市計画を省略

3　基本方針等
目標像　基本方針　整備方針

4　フレームワークプランの概要
1）機能強化・機能配置の基本方針
2）ゾーニングの基本方針
3）動線計画の基本方針
4）交通計画の基本方針

Kumamoto University

1　フレームワークプランの位置づけ等

1）フレームワークプランの背景

熊本大学は、本学の理念・目標に基づき、長期的視点に立った計画的な整備を進めていくためにキャンパスマスタープランを策定している。キャンパスマスタープランの次期更新に向け、時代のトレンドにもとづき整備を展開することが必要な対象と、保有する自然環境や歴史的資源など、今後も保存・維持し後世に引き継ぐべき対象及び継承すべき整備方針などが必要となっている。

そのため、３０年から５０年の長期的スパンで、持続可能で普遍的要素を考慮したキャンパスフレームワークプランを新たに策定し、キャンパスマスタープランを充実させるものとする。

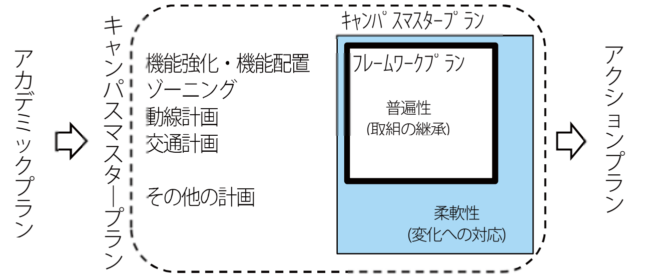
2）フレームワークプランの目的

①持続的なキャンパスの整備を行う過程で基準となる普遍的な「枠組み」を定める。
②キャンパスマスタープランのうち、環境計画（=物理的な施設整備計画）における基幹的要素を定める。

3）フレームワークプランの位置づけと内容

継承性・長期的見地の役割を担い、統一性のある整備を継続するための骨格と位置づける。

フレームワークプランは、キャンパスマスタープランに包括され、その中で取組を継承する普遍的な要素について記述する部分である。フレームワークプランでは、全キャンパスに共通する基本方針と機能強化・機能配置、ゾーニング、動線計画、交通計画に関する普遍的な要素を定める。キャンパスマスタープランの更新では、変化への対応が可能な柔軟性を伴う要素を付加し立案する。



図．フレームワークプランの内容

2　フレームワークプランの前提条件

1）アカデミックプラン

熊本大学は、人材育成を通して持続する社会に寄与するために、歴史・伝統の蓄積と最先端の高度な環境を活かし、地域性と国際化のバランスを満たした研究拠点キャンパスの形成を目指している。

2）自然環境、立地環境及び歴史的環境

キャンパスは４つの風致地区に囲まれるとともに、熊本市中心市街地の隣辺部に立地する。

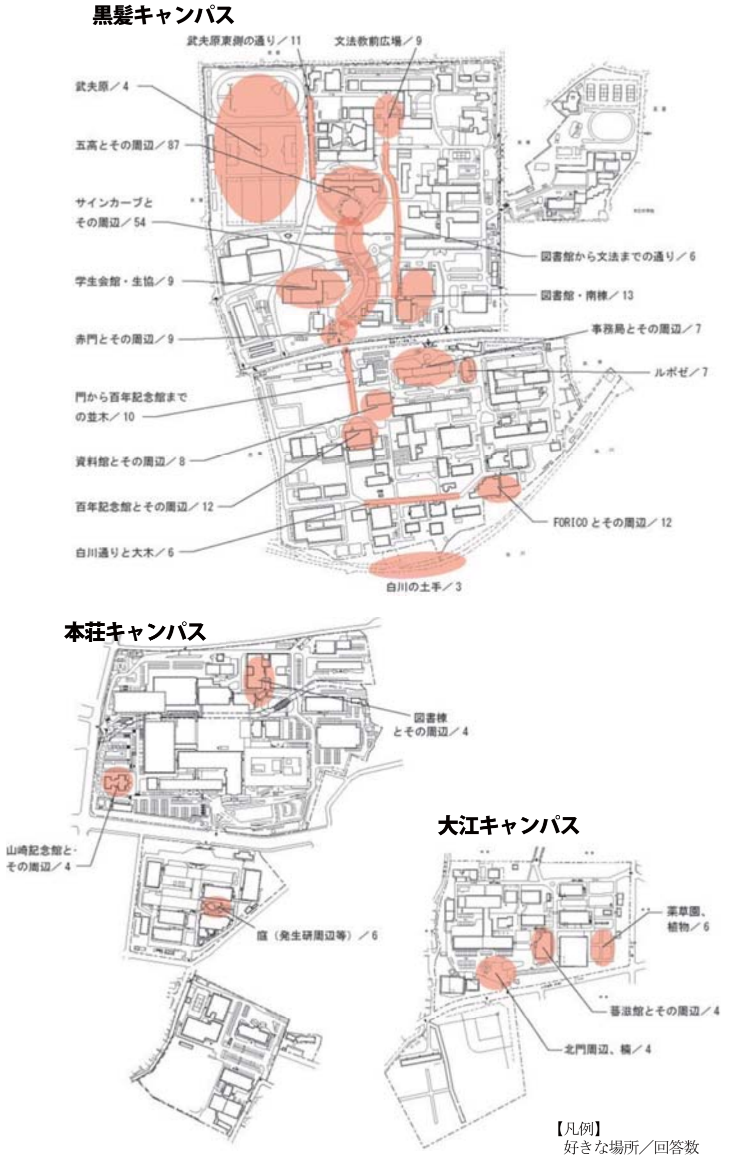
本学は1756（宝暦6）年に開かれた、日本最初の官立医療施設ある細川藩の再春館や蕃滋園（ばんじえん）を源流とする医学部・薬学部、1887（明治20）年開設の第五高等学校の流れをくむ文・法・理・工学部、1874（明治7）年開設の県立仮熊本師範学校に始まる教育学部等で構成される。

3）現況調査からの課題整理

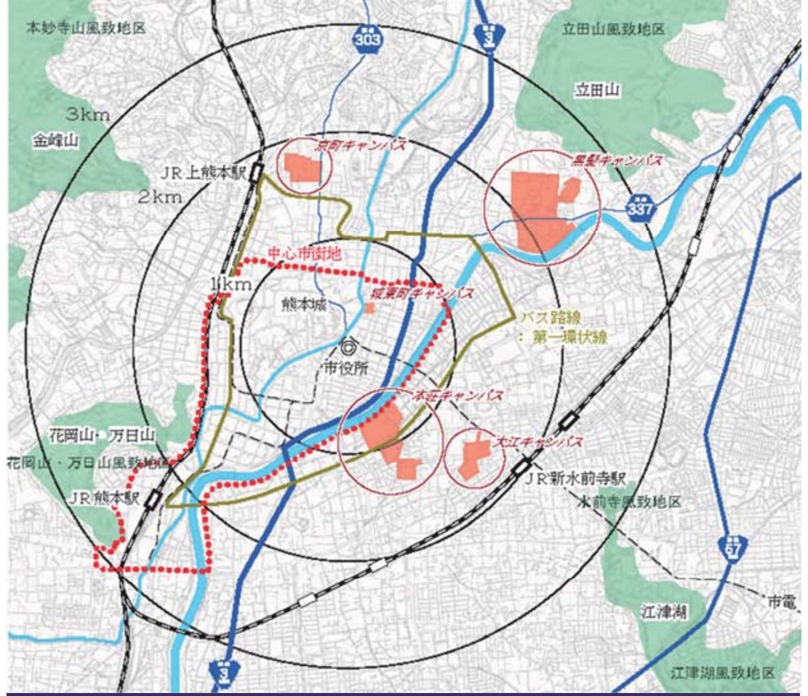
・キャンパス利用者数：学生・教職員数の合計は2011年5月現在で約12,300人であり、現状の許容力を維持したキャンパス機能の強化・拡充が求められている。
・建物状況：新築・改修による建物機能の更新は一応の整備を完了。今後、耐震改修、改善・補修等に移行し、計画的に進める。
・駐車場・駐輪場：規模・配置の適正化が求められる。

4）アンケート調査からの課題整理

・好きな場所：「五高及びその周辺」が最も多く、「赤門から五高までのサインカーブ及びその周辺」とあわせて多くの支持を得ている。
・象徴的な場所：五高記念館（全体の44%）、赤門（12%）、工学部百周年記念館（7%）、木々・並木（7%）、事務局本館（6%）



図．好きな場所（アンケート結果）



キャンパスフレームワークプランの今後の進め方

時期	内容
2011 (H23)	**キャンパスフレームワークプラン 2011**
	キャンパスマスタープランの次期更新に向けた検討
2013 ～2015	キャンパスマスタープラン 黒髪･本荘･大江･京町･城東町
10 年後 (更新)	キャンパスマスタープラン 黒髪･本荘･大江･京町･城東町
20 年後 (更新)	キャンパスマスタープラン 黒髪･本荘･大江･京町･城東町
30～50 年後	**キャンパスフレームワークプラン　更新**

キャンパスフレームワークプラン概要版
平成 24 年 3 月　　国立大学法人熊本大学
施設・環境委員会策定
キャンパス整備ワーキング作成
http://www-cms.jimu.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/shisetu/fwplan

3　フレームワークプランにおける基本方針等

◆目標像

『地域に根ざし、グローバルに展開する未来志向の研究拠点大学』

熊本大学アクションプラン（＝中期目標・中期計画に基づく）より

◆基本方針

未来志向の学術研究拠点形成のための基盤づくり

未来を生き抜くプロフェッショナルの養成と国際的に卓越した先導的研究を支える機能強化、施設・環境の整備により拠点形成を推進する基盤づくりを行う。

学都熊本を牽引する個性と創造性あるキャンパス形成

個性と創造性ある教育と交流のためのキャンパス空間の整備と、蓄積された歴史及び文化遺産の知的価値の創造と活用を推進し、学都熊本を牽引する。

サスティナブル社会のモデルとなる キャンパス機能強化

エコキャンパスの構築と様々な環境対策の実験的取り組みを通してサスティナブルな社会のモデルとなるようなキャンパス内の機能強化を図る。

◆整備方針

整備方針をFICSS 5（フィクス・ファイブ）に設定する。

① Flexibility　[変化への柔軟性]
② Identity　[個性あるキャンパス環境の創造]
③ Community　[未来志向の教育研究を創出する交流の促進]
④ Safety　[安全・安心な環境の確保]
⑤ Sustainability　[持続的な発展可能性]

4　フレームワークプランの概要

フレームワークプランは、機能強化・機能配置、ゾーニング、動線計画、交通計画の基本方針で構成する。

1）機能強化・機能配置

◆機能強化・機能配置の目的

上位計画からの要請を整理し、空間計画に反映させること。

◆機能強化の基本方針

①教育研究環境の質の向上

教育研究内容が多様化・高度化する過程で機能の拡充を図る。但し、既存施設の共同利用の促進や重要性・優先順位等を十分に検討し対処する。

②熊本大学としての個性の喚起

歴史的資源とあわせた環境づくりで個性化を図る。

③市民に開かれた大学

パブリックスペースは交流や休息の場として機能する重要な空間であり、交流ゾーンの明確化を重視する。

◆機能配置の基本方針

①学部ごとの個性の喚起と機能の連続性

学部系の機能を集約し個性化を図る。エリア（学部系）が隣接する場合は、同種機能（講義棟群や実験・実習棟群）の連続性や、機能拡充に資する施設を配置する。

②歴史的資源や緑地等の保存計画

保存する建物や樹木を指定する。機能転換によりやむを得ない場合は、代替案を検討し残留策を講じる。

③パブリックスペースの確保

交流ゾーンに加えて、教育・研究ゾーンにおけるオープンスペースや施設内コミュニティスペースを確保する。

2）ゾーニング

◆ゾーニングの目的

長期にわたる施設更新の過程で、キャンパスとしての機能と個性を失わないようにする。特に以下の３視点が重要である。

・「学問の府、研究の場、教育の場」というコンセプトを維持する。
・わかりやすい、行きやすい、回遊しやすい空間としての機能を維持する。
・親しみやすく、くつろげる空間としての景観を維持する。

◆ゾーンの設定

以下３つの【大ゾーン】に大別し、３つの大ゾーン内にある主要施設の利用形態を加味して【中ゾーン】を設定する。

・大学の中枢である［教育・研究ゾーン］
・開かれた大学を体現する［交流ゾーン］
・施設運営をサポートする［管理ゾーン］

◆ゾーニングの基本方針

①機能の独立性の保持

ゾーン内での建替えや更新が可能なように、一定の空地をとりながら、ゾーンごとの独立性を保持する。

教育・研究ゾーンへの部外者の無秩序な進入を抑制し、落ち着きのある良質な教育研究環境を保持する。

②機能連携の強化

教育・研究ゾーンの独立性を保ちながら、附属施設や交流施設との連携が図りやすい隣接性を確保する。

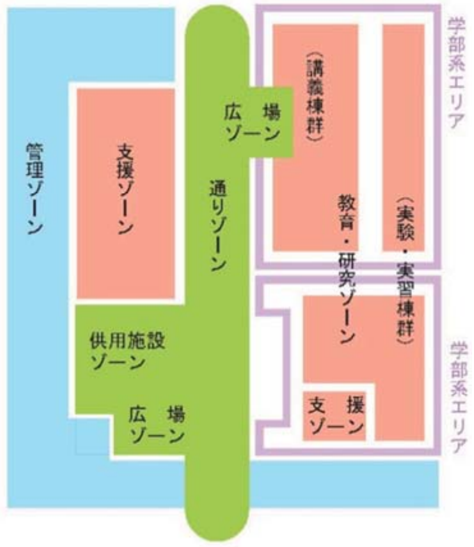
また、管理ゾーンのサービス接続性を確保する。

③施設利用者への快適性の確保

交流ゾーンを中央に配置することで、キャンパス全体の空間イメージをわかりやすくし、他ゾーンとの接点を円滑にすることで利用者の快適性を確保する。また、交流ゾーンは、市民生活の向上に寄与し、地域と調和した空間として利用に供する。

表.　ゾーン構成

大ゾーン	中ゾーン	主な施設
■教育･研究ゾーン	教育・研究ｿﾞｰﾝ	講義棟，研究室， 実験室，各研究センター等
	支援ゾーン	図書館，保健センター，各機構等 体育施設，文化施設,憩いスペース
■交流ゾーン	通りゾーン	シンボルロード,ビジターロード
	広場ゾーン	交流施設，緑地広場， ポケット広場
	供用施設ゾーン	学生会館，食堂，利便施設
■管理ゾーン		事務局，倉庫，駐車場，車庫 ｲﾝﾌﾗｽﾄﾗｸﾁｬｰ，設備棟，境界塀



図．ゾーニング概要

3）動線計画

◆動線計画の目的

機能的にネットワークされた動線計画により、わかりやすく効率的な移動を可能とし、歩行者にとって安全・快適な環境を実現する。

また、動線上のシークエンス（連続的な場面の転換）を景観計画の中に取り込むことで、キャンパス生活の中に物語性を創出する。

◆主要動線の設定

３つの【大ゾーン】に則して、主要動線を設定する。

①学生等動線

教育・研究ゾーンにおける、学生等の効率的な移動や夜間の安全性を確保するための主軸を主要動線とする。

②市民等動線

一般市民や観光訪問客の動線。沿線の広場と一体的に交流ゾーンを形成している通りを主要動線とする。

③管理等動線

駐車場の利用や、搬出入のための動線。

ゲートからメイン駐車場までの動線を主要動線とする。

◆動線計画の基本方針

①主要動線

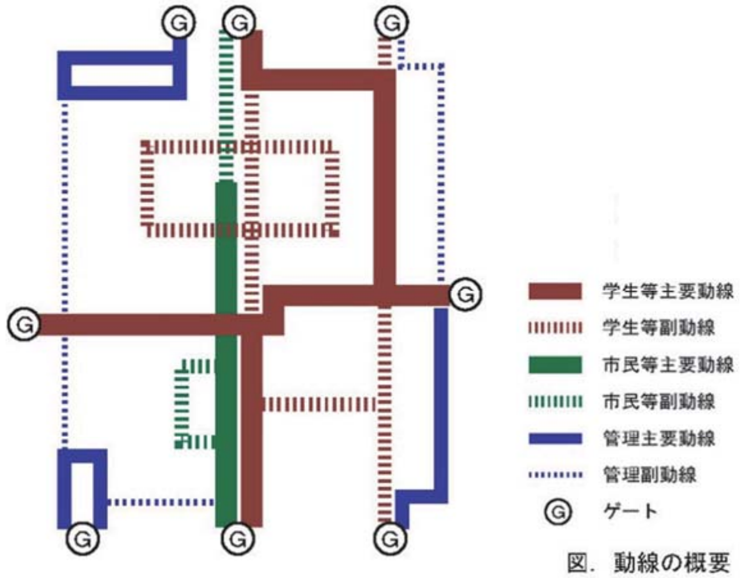
異なる種別の動線、同種の動線が多く重なる場合、主要施設と附属施設間での往来が多い場合の動線を主要動線とし、各ゾーンの中央を貫通するように配置する。

②副動線

ゾーン間をつなぐパスの役割のある動線、管理ゾーンの搬出入のための動線は主要動線に比べ動線が細く副動線と位置づけられ、ゾーン間やゾーン縁辺部に配置する。

③ゲートの位置づけと管理

ゲートは、玄関口の役割とセキュリティ確保のための役割があり、歩行者動線と交通動線の関係や時間規制のルール等を考慮し設置する。



図．動線の概要

4）交通計画

◆交通計画の目的

車両を含めて動線計画を補完しつつ、交通システムを構築し、静穏で安全・安心な構内交通環境を確保する。

また、秩序ある駐車場・駐輪場利用と利便性の向上を図り、良好な景観形成に寄与する。

◆交通計画の指針

①安全な歩行者空間の確保
②快適で静穏な教育研究環境の確保
③ユニバーサルデザインを導入したサインの設置
④環境に配慮した交通計画の策定
⑤各キャンパスの特性に応じた交通計画の策定